

■館長あいさつ

着任にあたって

館長 中山 敏



なごり雪ならぬ風雪で新年度を迎え、例年になく遅れておりました桜前線も、あっという間に通過しました。自然豊かな口ケーションに位置する当館の桜は、最大の展示物である「岩手山」を一層引き立ててくれました。

この4月、前館長の菊池慧氏の後を引き継ぐことになりました。現在、歴代館長の中に名を連ね、身の引き締まる思いです。若輩者でございますが、広大な県土を有する「岩手の自然史と文化史」の拠点となるよう取り組んで参りますので、これまでと変わらないご指導とご支援をお願いいたします。

菊池先生は2008年に発生した岩手宮城内陸地震後の10月に館長に着任し、東日本大震災津波の被災からの復旧まで、大変な時期に館長職にあられました。この間、着任した年に制定されております使命書に基づいた博物館活動を目指して、館の運営にあたられました。2010年には開館30周年を迎え、特別企画展「いわての漆」をはじめとする記念事業を展開していただきました。また、昨年度は予定されていた特別展示を全て中止し、被災した沿岸部の博物館等が収蔵

する文化財等資料の救出及び復元作業に全力でお取り組みいただきました。本当にご苦労さまでした。心より感謝申し上げます。

岩手県を俯瞰しますと、西から東に奥羽山脈、北上盆地、北上高地、三陸海岸と特色ある4地域に分けられます。自然環境が異なるそれぞれの地域では、人々の地域に根ざした様々な営みが展開され、歴史文化の宝庫となっております。昨年はその自然と人文の環境に関わって、それぞれ大きな出来事がありました。自然的事象としては、3月11日に発生した大震災津波です。リアス式海岸である本県沿岸南部は、歴史的にも幾度となく津波に襲われ、大きな被害を受けてきた地域です。しかし、宮古市田老地区に代表される巨大な防潮堤を越える津波は来ないだろうと思われていました。今回の人知を越える大災害は、改めて自然の脅威を我々に知らしめました。人文的事象としては、6月26日に平泉が世界文化遺産に登録されたことです。戦乱の中から平和を願った浄土思想が高く評価されたわけですから。この二つの事象を契機に、今こそ「岩手の自然史と文化史」を多くの県民に理解していただく絶好の機会ではないでしょうか。

今年度は是非このことを県民にアピールして参りたいと考えております。その一つが、来春1月5日から予定されておりますテーマ展「2011. 3. 11平成の大津波被害と博物館～被災資料の再生をめざして～」であります。昨年度から、

被災した博物館等の収蔵資料を改修し、県内外の関係機関の協力を得ながら洗浄、復元等の作業を進め資料としての価値を回復するように努めておりますので、その成果を展示したいと考えております。ご期待下さい。

岩手県立博物館は、県制百年記念事業として1980年に開館し32年目を迎えております。開館当時と比較し、当館を取り巻く社会情勢及び環境は大きく変化しております。現在、博物館経営を円滑に行うため使命書（2008年3月制定）、並びに変化する社会情勢や環境を的確に把握し、毎年作成する経営計画書に基づいて業務を遂行しております。価値ある資料の収集・保管・展示は博物館の土台でもあります。厳しい財政ではありますが、強固な土台とするよう努めたいと考えております。

次に、開かれた博物館をめざし、「古文書入門・初中級講座」、「日曜講座」、「たいけん教室」、「ミュージアムシアター」、「チャレンジ博物館」、「出前講座」等、様々な事業を無料で行っておりますが、残念ながら多くの県民に知られていないように思われます。そのため、広報活動を工夫しながら、多くの人々に繰り返し、足を運んでいただけるような『身近な博物館』となるよう取り組んで参ります。また、県外からの観光客が最初に博物館を訪れ、岩手を理解してから目的地をめざすよう関係機関との連携も図りたいと考えております。皆様の一層のご支援をお願いいたします。